

# 日刊メタルレポート

発行所  
**株式会社 日刊金属新聞社**  
 本社 大阪市城東区蒲生1-3-7  
 電話 (06) 6932-5443 代表  
 購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

住友金属鉱山電気亜鉛  
 蒸溜亜鉛・原料指定問屋  
 亜鉛・下ロス・滓買入  
**大阪亜鉛工業株式会社**  
 取締役社長 林 昭 宏  
 〒555-1 大阪市西淀川区佃四丁目一四番三号  
 電話 (06) 6471-1153 代表  
 〒113-1 東京都墨田区立花二丁目四番五号  
 電話 (03) 361-8113 五〇二番

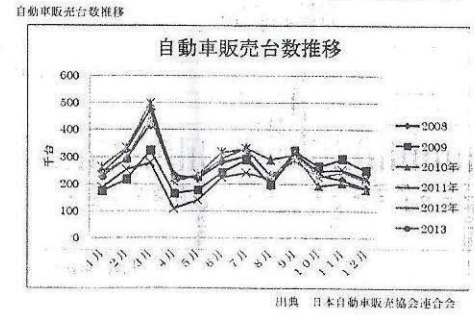
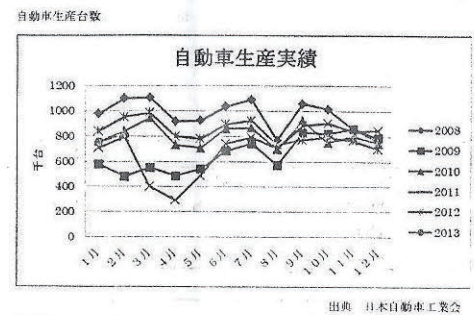
並銅・下銅  
 真鍮ドライ粉  
 アルミ・ステンレス  
 現金買入れ  
**新賀金属**  
 八尾市太田新町7丁目24  
 電話 072-949-9750  
 FAX 072-949-9462

◆自動車生産台数

	12月	1月	2月
生産台数	70万2258台	75万4054台	80万8194台
前年比	-17.2%	-9.9%	-15.1%

◆自動車販売台数

	1月	2月	3月
販売台数	22万9333台	29万2453台	42万69台
前年比	-12.9%	-12.2%	-15.6%



【概況】三月前半は米地区連銀報告書(ベージュブック)で「米景気はおだやかに回復ペース」との記載があったことや米失業率が七・七%増と前回の七・九%以下だったこと、また二月の米小売売上高が一・一%増とこちらも予測の〇・六%増を上回ったことや好材料もあつたが、LMEの在庫が三年ぶりに五〇万tを上回ったことや日米の株が高値を更新する中、対ドル・円でのユーロ安を嫌気しLME銅相場は七、七六二ドル(セツル)と前月最終価格より六九ドル下げての前半締めとなった。

後半はキプロスとEUでの金融支援合意が決定した事や米の量的緩和長期化観測、二月の米耐久財受注額の好結果やケース・シラー住宅指数の前年比が〇六年夏以来の伸びだったことなどプラス材料もあつたが、二月の米新設住宅販売件数が四・六%減、三月の米消費者信頼感指数が五九・七と予測の六七・三%を大きく下回った事、イタリヤ政局不安などの台頭から、四月三日現在、前半締めから三七二ドル暴落の七、四三五ドル、建値七六万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数  
 日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一五・一%減の八〇万八、一九四台であった。

◆自動車販売台数  
 日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一五・六%減の四二万〇、〇六九台。

二面へ続く

## 自動車生産、販売とも二ケ多減

### 住宅着工戸数は六カ月連続増

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート①

# 輸出は電気銅が一九・七％増

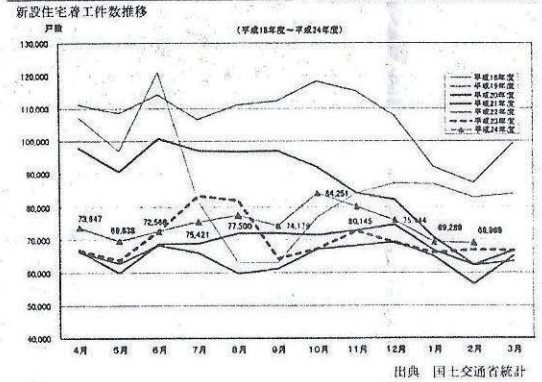
## 伸銅品生産、銅電線出荷とも減少

(二面より続く)

### ◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比三％増の六万八、九六九戸であった。

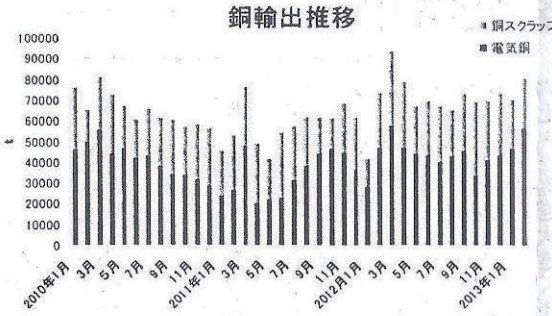
◆新設住宅着工戸数	12月	1月	2月
新設住宅着工数	7万5944戸	6万9289戸	6万8969戸
前年比	+10%	+5%	+3%



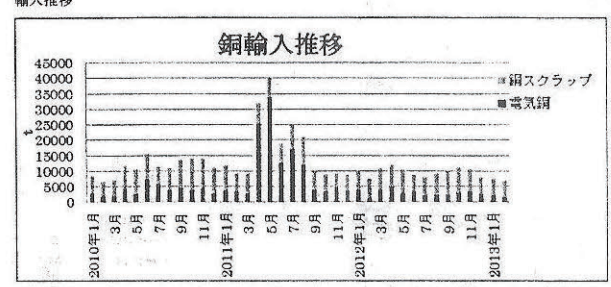
### ◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が一九・七％増の五万六二八五t、スクラップが九・五％減の二万三、九五六t。

	12月	1月	2月
輸出			
電気銅	43407 t	4万6323 t	5万6285 t
前年比	+20.4%	+65.1%	+19.7%
スクラップ	2万9788 t	2万3477 t	2万3956 t
前年比	+16%	+74.1%	-9.5%
輸出推移			

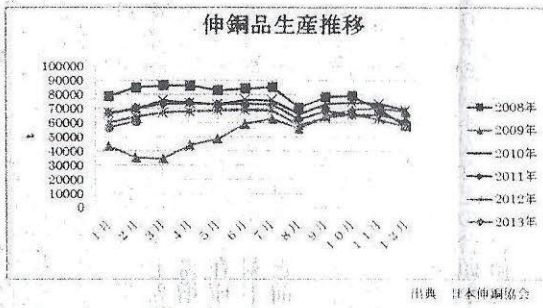


	12月	1月	2月
輸入			
電気銅	2600 t	2123 t	1422 t
前年比	-28.7%	-43.6%	+11.8%
スクラップ	5359 t	5339 t	5434 t
前年比	+4.8%	-15.1%	-14%
輸入推移			



### 【前月の国内指標】

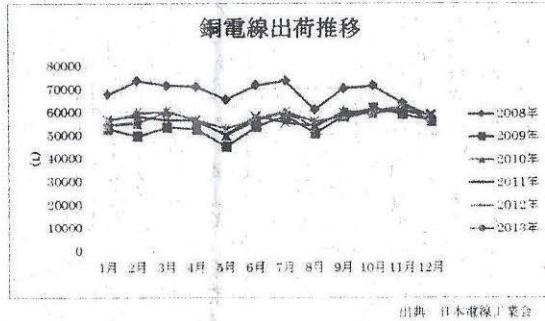
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比四・八％減の六万一、〇二〇t。



日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は前年比六・二％減の五万五、七〇〇tであった。(六面に続く)

LME銅に  
不透明感 商品への資金流入みられず

(二面より続く)



【見直し】

三月は、欧州の小国 キプロスショック(債務危機)に揺れた一カ月間となった。EUとの支援条件、預金課税の中身について議会で否決。その後ロシアに救済を求めるなど一進一退するも、結局株主の一部負担や高額預金者への課税を条件にEUと合意。

ただ、株主負担や高額預金者負担が今後の銀行救済モデルのデフォルトになるのではとの危惧が台頭。今後の動向に注目。

自動車生産は前年比一五・一%減と二桁悪化の六カ月連続マイナス、販売の方もほぼ前月から減少幅悪化の一五・六%減とエコカー減税終了の反動もあるが、まだまだ減少基調。

住宅関連は先月に続き六カ月連続増加の前年比三%増(季節調整済み前月比九・四%増)の六万八、九六九戸。復興需要や消費税アップ前の駆け込み需要など今後の動向に注目。伸銅品生産量は前年比四・八%減の六万一、〇一〇tと四カ月連続マイナス。前月に続き自動車生産の悪化が原因との見解。

銅電線出荷量は、前年比六・二%減の五万五、七〇〇tと三カ月連続マイナス。通信・自動車・輸出の減少幅の拡大が影響したとの見解。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比一九・七%増の五万六、二八五tと大幅増加。銅スクラップは九・五%減の二万三、九五六t。前月に続き、円安や電線、伸銅品、板条などの国内生産減少のため、輸出に向けられた

影響との見解

輸入は電気銅が一・八%増の一、四二二t、スクラップは一四%減の内、四三四t。大幅な円安による割高感や内需の力強さがまだ出てきてないことから全体では減少。銅需要に関して円安や株価急騰によりここ最近センチメントは大幅改善された。

また先月までは決算の関係で買い控えがあったものの、アベノミクスによる新年度入りの公共事業や復興需要の増加などからメーカーは買い気配。

銅価格に関しては新規材料としてキプロス債務問題が台頭、規模的には欧州総GDPの〇・二%と影響は少ないが、EUとの支援合意内容の預金課税について今後の救済モデルになるのではとの先行き不安もある。また過剰流動性資金が現在は株、国債、通貨に流れしており、コモディティ(商品)への流入がみられないことから上値は三月高値付近の七、九〇〇ドルを予測。

下値はNYダウの最高値更新や日経の高値更新に湧いた先月であったが、結局銅は七、九〇〇ドルを超えなかったことによる狼狽売りや、キプロス不安からも一段下の七、四〇〇ドルを予測。

銅建値に関しては七三〇七八万円程度と予測している。

2013年 12月期 マイナス〇・二%成長

在庫調整などでOECD加盟国

経済協力開発機構(OECD)は四日、加盟国の二〇一二年第四半期(十〜十二月)の国内総生産(GDP)確定値が前期比で平均〇・一%減少し、第三半期(七〜九月)の〇・三%増から悪化したと発表した。二月発表の速報値に基づく平均〇・二%減から上方修正した。

四半期の経済成長率がマイナスに落ち込んだのは、マイナス二・三%だった〇九年第一四半期(一〜三月)以来。加盟国の一二年通年の経済成長率は平均プラス一・四%で、二月発表のプラス一・三%から上方修正した。

OECDは十〜十二月期のGDPについて、民間の在庫調整に伴う生産減が〇・三ポイント、政府消費が〇・一ポイント、それぞれ経済成長率を引き下げたと指摘。民間消費、投資など総固定資本形成、純輸出は増加したものの、落ち込みを十分にカバーできなかったと分析した。